

# 平和・民主主義求める巨大な力

## 秘密保護法 急速に広がった反対の世論・運動

秘密保護法には、ごく短期間に立場の違いを超え空前の規模で反対が広がりました。平和と民主主義を求める巨大なエネルギーを日本国民が持っていることを示すものです。

映画監督・山田洋次氏、俳優・吉永小百合氏ら特定秘密保護法案に反対する映画人の会

「心ならずも戦争に対する翼賛を押し付けられた映画界の先達の反省に立ち…とても容認することはできません」(呼びかけ)

日本ペンクラブ(浅田次郎会長)

「市民による秘密への接近を厳罰をもって規制することは、この社会の内部にも、近隣諸国とのあいだにも疑心暗鬼と敵対感情を生じさせ、不穏な未来をもたらす」(声明)

ノーベル賞受賞者の益川敏英氏、白川英樹氏ら特定秘密保護法案に反対する学者の会

「『秘密国家』・『軍事国家』への道を開く」法案に「学問と良識の名において」反対する(声明)

音楽家・坂本龍一氏、大友良英氏、作家・村上龍氏ら「表現に関わる人の会」の芸術家など

「平和で民主的な社会を基盤として成り立つ…創造的な営み」など「さまざまな表現活動の自由を損なうもの」として廃案を要求(声明)

日本歴史学協会

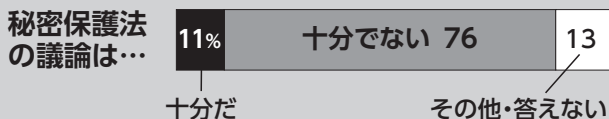
「本法案が示す軍事優先の姿勢は、憲法の平和主義の原則とは本来両立し得ない」「歴史の真実の検証が不可能になり、歴史研究にとって大きな妨げとなる」(緊急声明)

野中広務自民党元幹事長

「どうして今、この法律がいるのか、私にはそれがわからない。戦争の足音が聞こえてくる」「善良な人たちが罰せられることになりかねない」(11月17日TBS系番組で)

### 国会論議「不十分」76% 「反対」成立後もふえる

(「朝日」世論調査、8日付)



### 「何と拙速で強引」(「日経」社説)

秘密保護法の強行採決には各紙も厳しく批判しています。「何と拙速で強引な対応だろうか。法律の内容そのものも、また数をたのんで採決に持ち込んだ国会運営の手法も、まことに憂慮すべきものである」(「日経」社説 7日付)  
「日に日に高まる反対の声に耳をふさぎ、議席数に物を言わせて押し切った与党の横暴は国会の負の歴史として記憶されねばなるまい」(「京都」同)

## 最後まで「自共対決」貫く

日本共産党は臨時国会で「自共対決」を最後まで貫きました。秘密保護法が

**日本共産党**

成立させられた参院本会議で反対討論をしたのは日本共産党だけ(他の野党は退席)。論戦でも「共産・仁比氏の『警鐘』に議場拍手」(「毎日」11月29日)と報じるなどメディアも注目しました。

民主は「あと、2、3週間あれば(修正)合意にこぎつけることができた」と言うなど腰が定まらず、「修正合意」で自民の暴走に手を貸した維新、みんなは自民党の補完勢力であることが鮮明になりました。



デモ参加者を激励する日本共産党参議院議員団(6日、参院議員面会所前)